

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900078		
法人名	社会福祉法人生き活き館		
事業所名	グループホームケアポート生き活き館巨瀬		
所在地	高梁市巨瀬町5540-1		
自己評価作成日	令和4年3月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://pref.okayama.jp/page/detail-7669.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和4年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心の通うづくり」の理念を基に、利用者様個人を尊重した介護に取り組み継続しています。ご利用者様の受け入れ前から、受け入れ後、当事業所で落ち着いて生活できるように相談段階から、援助を行っています。ご入居者様の年齢も高齢となり日々の体調管理には早期発見早期治療に努めてご家族様、主治医、医療機関との連携を取り速やかに対応しています。認知症に関する研修、勉強会を通じ認知症への理解、接し方を学び実践しています。コロナ影響で、外へ出掛ける事が困難ではありますが外出先のご理解、ご協力のもと外食、地域住民様の暖かいご支援、ご協力にて盆踊り、秋祭りのお神輿来館、年末行事など四季を感じて頂ける行事に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

過疎化の進んだ山間地域に位置するグループホームで地域性を活かし、地域と共にある事業所の運営に努めています。地域の方とは設立時より、事業所の理解を得られる様、さらには気にかけてもらえるような存在となれる様に働きかけを行い、現在は双方の行事参加・医療面・災害時など協力関係を築き 共存共栄の精神を大切にしています。山間地域ならではの季節を肌で感じる事が出来る環境の中 入居者の笑顔、職員の思いやりの中、一つの大きな家族のような事業所運営をされています。事業所の現状を細かく伝えることで安心して貰えるよう信頼関係構築に取り組んでいます。また、管理者は職員の主体性を高めるために現場の気付きや意見を尊重し、運営に反映できる様努めています。コロナ禍で行動制限される中、活気のあるレクリエーション、季節行事 地域の方との共同行事なども積極的に取り組み、又、努力出来る範囲での外出支援への努力も窺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心の通うづくり」の理念を職員全員で共有し、気配り、手配り、孫の手介護を念頭に個別にあった介護を行っています。	法人理念を基に日常業務の中で振り返りの機会を設け、職員同士意見を出し合いながら共有して実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響にて思うように交流行事は出来ていませんが本来ならば近隣の幼稚園児、小学生との交流会を行っています。また、地域清掃活動、秋祭りの神輿来館等コロナ対策を行い、地域の方々が当館の行事にボランティアとして参加して下さっています。	地域の方が秋祭りで事業所を訪ねて来てくれたり、門松作り・餅つき等コロナ禍でも感染対策をしながら出来ることは協力しながら取り組まれています。また、職員が地元の奉仕作業に参加するなど地域との繋がりを大切に継続しながら日常的に交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェは中止させていただいておりますが、地域の方々との交流を通じて認知症へのご理解、ご協力を頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により実質今年度は文章での開催が主になり年度末のみ実施となりました。	家族の参加は難しい状況なので、意見等を頂き事業所内で開催されています。	今後も状況を見ながら、家族や地域の方々にも参加してもらえる方法を検討し、サービス向上に活かす取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所地域包括支援センターの方に出席頂き情報交換、施設の実情をご理解頂いています。また相談、質問などあれば電話、市役所に出向き対応して頂いています。	常に相談しており、担当の職員一人だけでなく部署全体での対応もあり、顔の見える関係を大切にしながら良好な協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を重視する為、玄関や通用口は施錠させていただいておりますが、館内は自由に移動していただけるようになっていきます。時に目の届く時には玄関等の鍵を解除しています。	職員同士見守り体制を作り安全確保し、玄関の施錠を解除する等自由な暮らしの支援をしています。また、声掛けでは柔らかい表現や分かりやすい表現で抑圧感のない様、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置、年3回以上の研修を行い、職員全員が虐待に対する理解深め、日々行っている介護についても振り返り確認しつつ虐待に繋がる介護にならないよう意識を高めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにも後見人をつけられている方もおり身近な内容として内外の研修に参加。権利擁護について学び、得た情報を職員全員に周知しています。また、必要と思われるご利用者様ご家族様に説明、関係機関との連携を取っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や退去時、その他必要時にご利用者様やご家族様に不明な点等がないか尋ね、ご理解頂けるよう説明行っています。随時変更等あればその都度電話、文章にてお知らせをしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や計画作成時、来館時にご意見を頂いています。意見内容に応じて言いやすい雰囲気づくりに努めています。お聞かせ頂いたご意見等は職員会議などで周知し介護に反映しています。	面会は、家族に事業所に来てもらって別室にてリモートで行っています。また、毎月担当者から写真付お便りを送付し雰囲気や伝わる様工夫したり、電話で状況を細目に報告したり連絡を取り意見交換をしながら安心してもらえる様努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議、カンファレンスにおいて先ずはユニットリーダーを中心に意見を出し合い精査、検討、実践と段階的に運営に反映しています。	職員から運営に関する意見を聞く機会があり、職員同士話し合いながら自分達で考えて反映できる様管理者は見守りながら取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、職場の勤務状況や実績を評価し、給料・賞与のアップを含めやりがい持てるよう条件を検討しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には、いつまでも向上心を持ってもらう為、内外の研修参加、専門資格習得を促しています。内部研修については持ち回りでテーマを決め講師役を努めさせています。外部研修等につきましては勤務扱いや交通費の負担等を考慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者やケアマネは地域での集まりがあり、参加しています。病院や市などが開催する研修会、協議会等の参加も、各職員から募り参加を促しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の状況把握は2回以上、計画作成担当者、担当予定者等で実施。ご本人が困っていることや不安な気持ち等を聞き出し、安心して頂けるよう信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や不安についても、状況把握の時点から聞き取りをして関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの対象者であっても、他に適切なサービスはないか等も勘案して相談援助を行い比較検討して頂いています。サービス実施後も介護度や状態を考慮し、他サービスへの移行のメリット・デメリット等、説明を実施しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	単に介護する・される関係では無く、人として対等な関係を保てるように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と共にご本人を支えていく事を目標としています。例えば必要物品をご持参頂く等、関係を保てるよう何かしら工夫しながら、家族様との縁が切れない様、また負担になりすぎない様に勘案しながら援助しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人情報もあり、施設から積極的には行っておりません。外部(旧知の方からの手紙や来館)からの連絡等あればご家族様に確認後、関係が継続するように心掛け対応させて頂いています。外部への援助は原則家族対応をお願いしております。	入居者・職員は地元の方が多く会話の中で思い出話や共通の話題を通して馴染みの人や場の関係継続に取り組んでいます。また、受診の時などに知り合いの人に会うことができたり、散歩の際地域の方から気軽に声をかけてもらえたりと、今までの関係が途切れない様支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が日々気持ちよく暮らせる様、常に関係性に注意し観察しています。新規の方が入られた時や必要と思われる時には席替え、声掛け等を行い調和を図っています。また、ユニットだけにこだわらず、施設内での交流等にも努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご本人やご家族様のフォローはもちろん、現在担当の事業所や病院等とも連携を取り、支援を行っています。また、困った事が起こった際には地域の介護施設として、引き続き相談を受ける体制である旨をお伝えしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でご本人やご家族様の意向を汲み取り、ご本人様の希望を職員全員が把握、検討する場を設けることで、その人らしく暮らして行けるように支援に取り組んでいます。	日頃のコミュニケーションを大切にし行動や表情等、一人ひとりの思いや意向を引き出せる雰囲気作りをしています。職員同士、何が大切で必要か話し合いながら本人本位の支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前、後の状況把握にてご本人様やご家族様のから聞き取りを行い、職員全員が共有できるように会議を行い周知していく事に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の行動や言動、その時の対応等記録に落とし現状と介護計画書に相違を生じた場合には速やかにカンファレンスを行い対応する。この繰り返しを行う事でご本人様のできる力を維持、継続に繋げています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族が必要としていることを聞き取り、担当者会議にて話し合いを行い介護計画の作成を繰り返しながら本人、家族様の希望があれば臨機応変に対応しています。	担当者・ケアマネージャーを中心に本人・家族・医師・看護師・薬剤師の意見を聞きながら作成し、カンファレンスで職員同士話し合いながら取り組んでいます。情報共有を大切に現状に即した介護計画になるようチームで話し合っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、対応などの記録を残し重要な内容、些細な気づき、対応に関する工夫等について職員間での情報共有を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでのサービスにも限りがありますが、ご本人やご家族にとって最善の対応を心がけています。ハード、ソフト面の対応も視野に入れています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではありますが地域住民の方々の協力のもと地域行事や展覧会への参加、二か月に一度の訪問散髪等の外部の方々との交流を図る事により日常とは違う時間を過ごし豊かな気持ちになって頂けるよう努めています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前にかかりつけ医の相談をさせて頂いています。また、入居後の医療機関との連携は、ご家族に確認を取りながら、適切医療が受けられるように、積極的な支援に取り組んでいます。	かかりつけ医による継続的な医療を受けられるように個々に応じた医療支援に取り組んでいます。家族が通院の付き添いをする場合は文章で普段の様子や情報を共有し適切な医療が受けられる様に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師を配置しており、利用者様の体調状況は常に伝えており、適切に支援しています。また、看護師が窓口となり主治医、関係医療機関等との連携に努めています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段より各病院のMSW等とは情報交換を行っており、入院時付き添いからの関わりをもち状況把握をこちらから積極的に行い、情報収集をし、早期での退院受け入れができるよう医療機関と共に支援を行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時から意向を聞くようにしており、ご本人やご家族の希望を基に主治医、医療関係機関と連携を図りながら支援します。	契約時に事業所の出来ることを伝え、その都度話し合いをしながら、家族の役割等も伝え、看取りに関しても前向きに取り組んでいます。	医療の連携も考慮に入れ、これからも事業所の出来ることを伝えながら、本人・家族の気持ちに寄り添える関わりを大切にいた看取りの体制作りを整えられることを期待します	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について研修を行い、救急車要請の手順書を作成電話の近くに配置。また、個人ファイルの最初に、救急隊員に伝える情報を完備しています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回防災訓練を行い、災害時の避難誘導、対応が行えるよう確認しています。	地域性を考慮した災害対策を地域の方と共に実践しています。ハザードマップの確認、孤立した場合の為の備蓄、がけ崩れ、道路の寸断なども考えられ、地元の方との協力体制をとり災害対応を実践しています。	訓練から今後は地域・消防も含めた訓練、対策を行われることを期待します。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を通じて、ご利用者様のこれまでの人生や考えを尊重し対応、声掛けには気を付けています。介護保険でのサービス上、自立支援を心掛けている中で、利用者様の意に沿わない声掛けもあるようですが、職員間で話し合いながら声掛け、関わりを検討しています。	基本となる声掛け、言葉遣いには特に気をつけた対応を心掛けています。その時々に合わせて本人本位に考え、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。不適切な場合は職員同士注意し合いながら取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけの訴えだけでなく、日頃の些細な言動、行動、表情などから気持ちを導く事により自らの表現、決定等できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内のスケジュールはある程度決まっていますが、利用者様のその日の体調、気分に合わせてながら無理のない範囲で希望に応じています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前からの身だしなみの習慣の継続、ご本人に合った装いができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は職員が行っています。ご利用者様には配膳前後の手伝いを行って頂いています。行事等での食事、おやつ作りでは一緒に作って食べることでコミュニケーションを図っています。また、年二回の夕食を行っており、行き先はご利用者様の意見を反映し決定しています。	食事は栄養摂取だけでなく その人にとり楽しみとなるような食事提供に心掛けていました。季節に合わせた食事、いつもと違う場所で食べる楽しみ いろいろな場面で食を楽しむ工夫が見られ職員の思いやりが感じられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量、体重等は記録に残し、体調の変化には早急に対応できるよう看護師や医師と連携をとっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては個人差があるので、利用者様ごとに声掛け、介助、必要であれば歯科受診を検討、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくトイレでの排泄を心掛け、ご本人やご家族からのポータブルトイレの使用の要望時にはトイレでの排泄の大切さをご説明し自立に向けた支援を行っています。必要に応じおしめを使用して頂くこともあります。個々の排泄パターンを確認、把握し声かけにてトイレ誘導しています。	本人に合わせた対応に心掛けています。カンファレンスを開催し、個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っています。パンツ、パッド類は本人の希望を尊重し季節や体調に合わせて一人ひとりに合った物を使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物、水分量、運動量に注意しています。医師の意見を参考に便秘予防に取り組んでいます。便秘が続くようであれば医師に相談、指示のもと下剤の調整にて対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏は週3回、冬は週2回で基本の曜日を決めています。ご本人の体調や希望に応じ臨機応変に対応しています。時には入浴剤や柚子などを使用しいつも違う雰囲気を楽しんで頂いています。	入浴は清潔保持、リラックス、気分転換できる場と捉え個々に沿った支援をしています。また、季節の入浴剤やゆず風呂等いつもと違ったにおいや雰囲気を楽しめるような工夫もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室はもちろんですが、共有スペースの和室コーナーやソファなど、ご本人が落ち着ける場所で休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様の体調変化は看護師を通じ、医師または、薬剤師に情報提供し連携を図っています。薬手帳や説明書で薬の確認を行い、その方の病状を理解した上で服薬の支援を行っています。服薬後の観察も怠らずに継続しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	同じ日に色々とは出来ませんが午前には体操、午後から体操、脳トレ、日替わりレクリエーション。水分補給時には個人の嗜好に合わせた飲み物を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生き生き館周辺散歩は何時でもできるように支援しています。外食やお花見等の戸外行事については安全面からユニット単位で行っています。個人的な外出についてはご家族様にお願いしていますが、必要であればお手伝いさせていただきます。	天気や体調を見ながら事業所周辺の散歩をしたり、外にテーブルを出して食事やお茶をしたり楽しんでいます。日を分けて外食したり花見に出かけたりと戸外へ出掛けられる様支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひと月1,000円をお小遣いとして預かり、移動販売が来た時に自分の財布から支払いをして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望あればこちらでダイヤルを回しお渡ししています。手紙についても同様に対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの明るさや音、温湿度には注意を払っています。また、ご利用者が作られた作品、行事写真、壁面等を飾り季節感を出すようにしています。介護に当たる時の職員のかもし出す雰囲気にも気を配っています。	共用空間スペースは季節感が感じられる様に入居者と一緒に行った作品を個々の部屋の表札に飾り付けをしています。また、入居者が自分のペースで過ごせるように声かけや落ち着いた雰囲気作りを心掛け心地よく過ごせるように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファ等、誰でも気軽に利用できる場所を設置しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち物、家具の持ち込みは基本自由なので、ご本人様やご家族様との相談の上、普段から使用し使い慣れた家具、食器等をご持参して頂いています。	居室は馴染みの家具などが持ち込まれ、本人・家族の希望に沿った部屋となっており、入居者はゆっくりと居室で過ごせように配慮した居室づくりとなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様にとっては、厳しく感じる所もあるかと思いますが、自分にできる事、分かる事はして頂く様に職員が声かけをしています。本人のADLや、居室での危険行為の予防を予測をし、ベットの向きや家具の配置等に配慮しています。		